令和２年度　学　校　評　価　【　最　終　報　告　書　】

加賀市立三谷小学校　校長　平井　雅子　　印

学校教育ビジョン

１　学校教育目標
　夢や目標に向かって，主体的に学ぶ三谷っ子の育成

２　「子どもも保護者も地域の方も，みんなが大好きな三谷小学校」をめざして

（１）めざす児童像
　①自分の夢や目標をもって，前向きにがんばる子
　②友だちを大切にし，人の気持ちを思いやる子
　③心身ともに元気な子
　④家庭や郷土を大切にする子

（２）めざす学校像
　①学ぶ意欲にあふれ，一人一人の成長が感じられる学校
　②子どもが安心して笑顔で生活できる学校
　③保護者や地域とともにあり，愛される学校

（３）めざす教師像
　①子どもの目標達成や夢の実現を支えるために，協働して学び続ける教師
　②児童一人一人の安心と安全を第一に考える教師
　③保護者や地域と協力して，子どもたちを育てる教師

３　今年度の重点目標
（１）豊かな心と健康な体を育成する教育の推進
（２）主体的な学習態度の育成と学力向上
（３）すべての子どもが安心して学べる学校づくり
（４）家庭や地域との連携と郷土を愛する心の育成
（５）協働し，笑顔で教育活動を推進する教師集団づくり

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果（中間）	2学期以降の改善策	判定結果	今後の改善策
①教育課程・学習指導	各教科の授業のふり返りに重点を置き、自己の変容や新たな課題の発見につなぐことができるように授業改善を図る。	各授業において、めあてを明確にした授業を展開し適切にまとめたうえで、自己の変容・学びの実感を確認するふり返りをする。	教務主任	授業時間のタイムマネジメントが図られ、ふり返りをする時間は確保されつつあるが、ふり返りの内容を充実させる必要がある。	【成果指標】 各教科の授業において自己の変容や学びの実感、学びのつながりを意識したふり返りをすることができる	授業のふり返りをしっかりできた児童の割合が、 A　90%　　B　70%以上 C　60%以上　D　60%未満	7月・12月に児童を対象にアンケートを実施する。	B	学力向上1校1プランの重点取組に基づき、ふり返りの内容の低中高のめざす姿を提示し、自己の変容や学びの実感、学びのつながりを意識したふり返りの充実を図る	B	アンケートの結果は87%で、教職員や児童のふり返り意識はしっかりついてきている。ふり返りの内容のめざす姿については、学びの充実は育ってきているが、自己の変容や、学びのつながりを意識したふり返りにまだ課題がある。特に学びの変容については、表現の仕方が分からない児童がいるので、型を示したり、教師が先導したりしていきたい。
②生徒指導 ※いじめの未然防止	お互いがよい気持ちになるようなあいさつを、一人一人が自分から進んですることで、よりよい人間関係を育成する。	今できているあいさつを見直し、レベルアップできることを考え、学級や集会などで呼びかけていくことで児童の意識を高め、実践につなげる。	生徒指導主事	あいさつの運動や、朝と帰りのあいさつでは元気に声を出している姿が見られる。普段の学校生活や登下校でも、一人一人が自分からあいさつができるようになってほしい。	【成果指標】 自分から進んであいさつをすることができる	自分から進んであいさつをすることができた児童の割合が、 A　80%以上　B　70%以上 C　60%以上　D　60%未満	7月・12月に児童を対象にアンケートを実施する。	A	児童会のあいさつ運動の取り組みを全校に広めたことで、あいさつへの意識が高まった。高学年の児童の中には、まだ意識が足りないと感じている児童もいるので、意識が継続するような取組を児童とともに考え、実践していく。	A	遠足や学校に来客があったときなどに、自分から進んであいさつする姿が見られた。しかし、アンケート結果では、90%から87%に微減している。高学年が12月のアンケートではA→Bに変化していることが原因と考えられる。教職員やふれ愛パトロールの方など毎日当たり前に会う相手へのあいさつを見直し、日頃から進んであいさつをすることの意識が継続できるようにしていく。
	生徒指導の3機能を生かした授業作りに取り組み、いじめ・不登校の未然防止を図る。	学校生活アンケートやQ-Uアンケート、児童との面談などを通じて児童の実態把握を図り、児童のよいところを認めながら、「自己決定」を意識した授業づくりの実践を進め、児童の主体性を高める。	生徒指導主事	友達と仲良く関わることができる児童が多く、少人数のよさを生かし、全校で遊んだり、たてわり活動で異学年交流したりと、活発に学校生活を送っている。しかし、自分の思いを持ち、主体的に行動しようとする力が弱い面もみられる。	【努力指標】 児童のよいところを認め、「自己決定」を意識した授業実践を行う。	児童のよいところを認め、「自己決定」を意識した授業実践を行うことのできた教職員の割合が、 A　100%　　B　80%以上 C　60%以上　D　60%未満	7月・12月に教職員を対象にアンケートを実施する。	B	「自己決定」の場を意識した授業を実践し、児童一人一人の良さや違いを認め合える学級・学校づくりを続けていく。2学期には行事も予定されているので、生徒指導の三機能を意識し、児童が自分たちで決め、自分たちで行動に移していくことで主体性を伸ばし、関わり合いの中でよりよい人間関係を築けるようにしていく。	A	教職員アンケートでは、100%の上位回答を得られた。行事では、5・6年生を中心に自分たちで考え行動し、盛り上げていこうとする姿が見られた。スポーツフェスティバルやマラソン大会では、全校が自分たちで決めた目標に向かって主体的に取り組むことができた。また、日々の学習でも少人数のよさを生かし、学年を超えた交流を通して互いを認め合う機会を多く持つことができた。
③キャリア教育・進路指導	適切な目標を持ち、その達成に向けて、前向きに課題に取り組み、やり遂げた満足感を味わわせ、将来の夢や希望をふくらませる。	各種行事や取組等において、各学年や個々人の実態に応じた適切な目標を持たせ、目標が達成できるようにする。	キャリア担当	明るく素直で仲のよい児童が多いが、適切な目標を立てて、継続して努力していく力が弱い傾向がみられる。	【努力目標】各種行事や取組等において、児童が適切な目標を立てて努力し、自己評価できるようにさせる。	【努力目標】 各種行事や取組等において、児童が目標を立てて努力し、自己評価する機会を持たせることができた教職員の割合が A　100%　　B　80%以上 C　60%以上　D　60%未満	7月・12月に児童・教職員対象のアンケートを実施する。	B	休校により、例年実施している各種行事や取組が大幅に削減・縮小されたが、その中でも、実施された行事等においては、児童に目標を持たせることができた。2学期以降は、目標設定後、自己評価や振り返りをする機会を積極的に持たせ、児童自らが行事等を通して、よりよく成長をしていけるようにする。	A	スポーツフェスティバルやマラソン大会等の行事をはじめ、様々な取組や授業の中で、児童に適切な目標を持たせた、達成できるように声かけや励ましをすることできた。教職員アンケートでは100%の上位回答を得られた。児童においても、立てた目標を達成しようと一生懸命に努力したり協力したりする姿が多く見られた。
④保健管理	児童の発達段階に応じた、バランスの良い体力の向上を目指す。	器械運動領域だけでなく毎時間の導入でコーディネーション運動を取り入れた体育科の授業を実践する。	体育担当	全体的にバランスよく体力の向上が図られているが、持久性においてやや弱い傾向がみられる。	【成果指標】 体力テストにおいて、32項目中25項目以上で昨年の県平均記録を突破する。特に、持久性の項目の突破を目指す。	体力テストにおいて、各体力要素32項目中、昨年の県平均記録を突破した項目が、 A　25項目以上　B　20項目以上 C　16項目以上　D　16項目未満	体力テストを実施し、体力分析を行う。	B	1学期の体力テストにおいては、32項目中23項目が昨年の県平均を達成することができた。持久性については、2学期以降のマラソン大会・練習等において力をつけていく。また柔軟性に課題がみられたので、授業の準備運動に柔軟を取り入れていく。	A	秋の体力テストでは、56年生はすべて県平均を達成していた。特に持久走においては、満足のいく練習をすることができ、その後のシャトルランはすべての児童が春の記録を突破することができた。柔軟性についても向上が見られた。来年度は、現4年生が県平均を下回った立ち幅跳びや上体おこしの対策を立てていく。
	感染症予防に努め、規則正しい生活を送ることができる児童を育成する。	生活チェックや学級指導、個別指導等を通して、早寝早起き等の生活習慣改善を図る。	養護教諭	臨時休校中の生活習慣の乱れ(特に睡眠)が原因で、体調不良を訴える児童や集中力の低下がみられる児童が多い。抵抗力の面からも生活習慣の改善が必要。	【成果指標】 早寝・早起きを心掛けることができる。	早寝・早起きができたと答えた児童の割合が、 A　90%以上　B　80%以上 C　70%以上　D　70%未満	7月・12月に児童対象のアンケートを実施する。	B	学校が再開し、児童は通常の生活リズムを取り戻しつつある。しかし、早起きはできていても、ゲームやテレビの時間が長いことで就寝時刻が遅くなっている児童が多い。2学期以降は、メディアコントロールと早寝の習慣化につながるような取り組みを委員会の児童と考え、全校で取り組んでいく。	B	高学年はメディア使用時間が減少し、早寝早起きも改善傾向がみられたが、低学年は早寝早起きに課題がある児童が増え、メディア使用時間も全体的に増加した。12月の学校保健委員会で、「メディアは1日2時間まで」と具体的な目安を提示したことで、メディア時間を見直そうとする姿がみられたが、時間を意識して規則正しい生活が送れるように、引き続きメディアと生活リズムについて重点的に働きかけていく。
⑤安全管理	防災への意識を高め、具体的な行動につなげることができるようにする。	訓練の際には、教科の内容と関連付けて事前指導を行い、日頃からの備えなどについて家庭と連携して点検し、防災への意識が継続するようにする。	教頭	訓練の際の防災への意識の高まりが継続するような手立てが必要。	【努力指標】 訓練の際の児童への事前指導を充実させ、家庭との連携をはかることができた教職員の割合が、	訓練の際の児童への事前指導を充実させ、家庭との連携をはかることができた教職員の割合が、 A　100%　　B　80%以上 C　60%以上　D　60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。	B	地震訓練では、児童は実際の場面を想像しながら危機意識を持って訓練することができた。しかし、各家庭での地震への備え状況をアンケートで調査したところ、結果はあまりよくなかった。アンケートの実施だけでなく資料の配布や機会を利用しての働きかけなどを行っていく必要がある。	A	救命救急、地震訓練、火災訓練ではコロナ禍のため制約を受けるないようとなったが、職員のシミュレーションを充実させ、また地震訓練では廊下に障害物を置いてより実際場面を想定しての訓練とすることができた。さらに、家庭や地域との連携した訓練・防災教育を実施していきたい。
⑥特別支援教育	気になる児童への校内支援体制の定着と継続を図り、児童の特性理解を深め、個に応じた支援を組織的に行う。	児童理解の会、特別支援校内委員会を定期的に実施し、支援を必要とする児童の理解を深め、個に応じた支援策を検討したり見直したりし、共有を図る。	特別支援教育コーディネーター	全職員で児童の特性を共通理解し、指導に当たっている。気になる児童に対して、その子に応じた具体的な支援策を考え、継続的に行う必要がある。	【努力指標】 個に応じた支援をするために、職員間で児童への共通理解を深め、支援策を検討したり見直したりする。	個に応じた支援をするために、児童への共通理解を深め支援策を検討したり見直したりできた教職員の割合が、 A　100%　　B　80%以上 C　60%以上　D　60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。	B	毎月の児童理解の会で気になる児童についての理解を深めたり支援策を共有することができた。2学期以降も継続的な支援を組織的に取り組んでいくことができるよう、職員間での児童の共通理解を深めていく。	A	教職員アンケートでは、100%の上位回答を得られた。2学期は、スクールカウンセラーを積極的に活用し、気になる児童の保護者と繋げたり、3～6年生と面談したりしたことで、専門的な助言をいただくことができた。気になる児童への対応や家庭環境についていただいた助言を、職員間で共通理解することで、児童理解を深めることができた。
⑦組織運営・業務改善	退勤時刻が19時を超えないように、業務内容の精選や効率化を図り、ゆとりある教育活動を推進する。	退勤時刻19時を目指すために、月ごとの業務改善振り返りシートに取り組み、各職員が具体的な改善点を意識して実行する。	教頭	日課の変更や学校行事の精選等の取組の結果、放課後の業務ための時間を増やすことができたが、教材研究等に多くの時間が取られている。	【努力指標】 退勤時刻が19時を超えないように、業務内容の精選や効率化を図る。	退勤時刻が19時を超えないように、業務内容の精選や効率化を図ることができた教職員の割合が、 A　100%　　B　80%以上 C　60%以上　D　60%未満	教職員の業務内容振り返りシートを集約する。	B	アンケートでは、7人中5人がAであったので、業務改善に対する意識改革は進んでいるが、就業時間は昨年度とあまり変わりない。効率化によって得られた時間を、趣味や読書・家族とのふれあいなどにあてていくことが、質の高い教育につながることを意識づけていく。	A	業務を効率化しつつ質を向上させる意識が見られるようになり、2学期の勤務時間平均は昨年度より4時間短くなった。業務効率を向上させ、授業準備や児童と向き合う時間を確保し教育の質を向上させることができた。来年度は、より多くの授業準備や児童と向き合う時間を確保し教育の質の向上を目指す。
⑧研修	国語科を中心として、主体的に学び、自分の思いや考えを進んで伝え合うことのできる力を育成する。	国語科の「話すこと・聞くこと」領域において、学習指導要領に示されている指導事項の確実な習得を図る。	研究主任	真面目に学習に臨む児童が多いが、自ら進んで思いや考えを伝えたり、友達と協働してよりよいものや意見を創りとげていく主体性がやや弱い傾向がみられる。	【成果指標】 学習指導要領に示された「話すこと・聞くこと」領域の指導事項に準じた「話す・聞く・話し合う力」アンケートを実施し、定着率をみる。	「話す・聞く・話し合う力」アンケートにおいて上位回答の児童・教職員の割合が、 A　80%以上　　B70%以上 C　60%以上　　D60%未満	7月・12月に児童・教職員対象のアンケートを実施する。	A	1学期末アンケートにおいて、児童約87%・教員約85%の上位回答を得た。新学習指導要領で求められる国語科「話すこと聞くこと」領域における指導事項を児童・教員とも明確に意識し、その向上が着実に図られている。しかし、まだ弱い部分があるので、その部分の焦点化・重点化を図り、向上を目指していく。	A	2学期末アンケートにおいて、児童約96%・教員約90%の上位回答を得、1学期末よりも改善・向上が見られた。今年度は、国語科「話すこと聞くこと」領域における指導事項を児童・教員とも明確に意識し、その向上が着実に図られている。しかし、まだ弱い部分があるので、その部分の焦点化・重点化を図り、向上を目指していく。
⑨保護者，地域との連携	地域の良さを生かした実践や地域行事の児童の参加を通して、児童の地域への誇りや郷土愛の心情を涵養する。	地域人材や地域教材を活用した授業実践を推進するとともに、地域の行事への積極的な参加を呼びかける。	教頭	地域・保護者の方はとても学校に協力的で、育友会や地域の行事へ多くの児童が参加し、また地域や地域の人材を活用した授業実践が行われている。	【努力指標】 地域を活用した授業実践を進め、地域行事への児童の参加を呼びかける。	地域を活用した授業実践を進め、地域行事への児童の参加を呼びかけることができた教職員の割合が、 A　100%　　B　80%以上 C　60%以上　D　60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。	C	休校や見学・外部講師の制限などで、地域と連携した教育を推進できなかった。実施方法を工夫して、郷土愛を育む実践を進めていく。	B	学校・地域行事の縮小や中止によって地域社会とつながった活動の機会は少なかったが、社会科や生活科で地域の先生を招待したり、読み聞かせボランティアの方々に入ってもらったりして地域と連携した教育実践を進めることができた。さらに、地域と連携した教育を進めたい。
⑩教育環境整備	校舎内外の環境整備・環境美化に努め、安全で教育効果を高める教育環境の充実を図る。	危険に対する高い危機意識を持って月に1回の安全点検を継続して行う。	教頭	定期的に点検し迅速に対応することができた。マンネリ化を防ぐため、新たな視点で点検項目を見直し落ち度の無いようにする必要がある。	【努力指標】 危険に対する危機意識を持って日々の点検に努める。	危険に対する危機意識を持って日々の点検に努めることができた教職員の割合が、 A　100%　　B　80%以上 C　60%以上　D　60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。	A	危機意識を持って点検し、安全点検等で発見された要修繕箇所には迅速に対応することができた。	A	危険個所については迅速に対応し、施設設備の危険な状態を回避することができた。後期は、支援員に消毒業務や環境整備業務の一部を担っていただき良好な環境を維持することができた。今後も迅速な対応を心がける。
学校関係者評価	・三谷小学校は、児童が受け身的ではなく主体的に学ぼうとしており、質の高い教育を実践しているのはとてもすばらしい。 ・保健管理の項目で、早寝早起きの児童アンケート結果がややよくない。子どもの就寝時刻の目安をしっかりと示し規則正しい生活習慣の指導を徹底してほしい。 ・休校のために授業日数が少なくなり、学校行事や町の行事が次々と縮小・中止された。授業時数が少なくても内容の取りこぼしがないようにしてほしい。そして、行事が縮小されるのはやむを得ないが、児童の思い出となるよう内容を工夫して今後も実施してほしい。 ・学校の規模適正化の問題については、見通しを明確にしていくことが望まれる。										